

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 29年2月15日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1690200496		
法人名	トータル・メディカル津沢株式会社		
事業所名	グループホームひだまり御車山		
所在地	富山県高岡市木津675-1		
自己評価作成日	平成29年1月10日	評価結果市町村受理日	平成29年2月27日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

一人ひとりの個性や能力にあったケアでその人のペースを維持できるようにしています。家族や友人、地域住民の来訪も多くなるように信頼関係構築や環境整備にも努めています。医療との連携も一方的にならぬように連絡や情報交換も密に行っています。利用者様の「笑顔」を大切に日々のケアに取り組んでいます。

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	北証パトナ株式会社		
所在地	富山市荒町2番21号		
訪問調査日	平成29年2月2日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

ひだまりのような明るい雰囲気のある事業所となるよう、職員は、利用者や家族、地域の人達と、支えたり、支えられたりしながらの暮らしを支援している。「木津大根の収穫に来られ」などと誘われ、夢中になって抜き取ったり、公民館で催される、いきいきサロンで人形劇を楽しむなど、地域の人達と交流している。また、フラダンスボランティアが来訪するなど、楽しみや張り合いを持って過ごせるように心がけている。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

グループホームひだまり御車山

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念と基本方針は掲示してある。法人パンフレットやホームページにも掲げている。	職員は、玄関に掲示してある理念を念頭に置き、カンファレンスなどで、理念が意図していることや心構え、ケアのあり方を具体的に話し合い、実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会において回覧板も廻して頂いており、祭事・いきいきサロンへの参加・施設行事への参加も回覧板で廻して頂き呼びかけている。地域の肉屋さんで買い物もしている。	地域の行事案内を受けて、公民館のいきいきサロンなどに参加し、交流している。また、回覧板を利用者と一緒に隣家に回しに行くなど、地域とのつきあいを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	いきいきサロンへの参加により地域住民の皆様と直接触れ合う機会を大切にしており、小学校の登下校通学路にも面しているため、散歩時には声掛けしても違和感はない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では行事報告や意見交換を活発に行っている。施設からの提案や要望に関しても反応が早く回答書を頂いている。	地域や行政、家族代表などがメンバーとなり、看取りについての考え方や職員の介助の仕方など、具体的な意見や提案が出され、運営に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	メールやFAXで通達や研修案内を頂いている。疑問や確認事項があった場合は施設から電話で担当者にお問い合わせしている。	介護保険報酬の加算に必要な書類など、わからないことはいつでも問い合わせ、相談にのってもらっている。また、市から、メールなどで通達や研修案内を受けるなど、連携を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>安全を優先させるため、家族の同意のもと、やむを得ずの場合を除き可能な限り拘束しないケアに取り組んでいるが、拘束を正しく理解できていない場合がある。社内での研修項目ともなり、研修予定あり。</p>	<p>「こういう方法だと利用者の動作を妨げないか」など、具体的な例を交えて検討し、身体拘束のないケアに取り組んでいる。ただ、全ての職員が理解している状況にならないため、研修を実施することとしている。</p>	<p>利用者の安全を確保しつつ、抑圧感のない自由な暮らしを支援するため、今後は、全ての職員が理解できるように身体拘束について研修を行うことが期待される。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>日頃から注意するよう努めているが、馴れ合い言葉になりがちである。拘束と同様に虐待も研修項目として研修予定である。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>現在4名の利用者様が成年後見人制度を利用している。後見人から様々な情報は頂ける。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>入居申し込みの段階から家族への説明や質問を受け付けている。契約書や重要事項説明書は必ず全文読み上げ説明し理解頂いている。</p>			
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の面会時には近況報告をして要望の確認や意見を頂いている。家族会を結成し、意見交換の場を設けられるように検討中である。</p>	<p>家族には面会時などに意見や提案を聞くように努め、話しやすい雰囲気をつくっている。利用者には、花見の行き先や節日の食事メニューなどの要望を聞き、運営に活かしている。</p>		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングにより職員からの意見を聞き、管理者会議の場にて代表者に伝えている。職員が管理者に提言しやすいように心掛けている。	ユニットごとに主任に相談したり、物品の購入などを全体で話し合うなど、日頃から職員の意見を聞く体制と、述べやすい雰囲気をつくっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	1年に2度の人事考課を実施している。また、働ける時間や場所などを考慮して配置されている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外研修への参加の機会は会社も推奨し、金銭面での助成もあるが、人員不足や、夜勤シフトの為、希望通りに受講できないときがある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	弊社内でのグループホーム部会にて管理者は交流し、情報を共有しやすいようにしている。各施設での問題解決に助言し協力している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が話やすい雰囲気を作り信頼関係を構築できるように、傾聴に心がけ、介護拒否や抵抗が起きないように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の要望を聞き、どうすれば良いのかを一緒に考えるように努めている。また小さな変化も報告し、対応策や結果も最後まで説明していくように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実際の生活様子を細やかに観察し、ニーズを見いだせるように心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	出来ることは本人にしてもらっているが、作業が集中しないように心掛け、出来ない人とは一緒にするように努めている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	外泊・外出・受診等、家族との時間が少しでも多くなるようお願いしている。施設行事に家族や知人の参加も積極的にお願いしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅の敬老会のパンフレットをお持ち頂いたり、タクシーの手配などに協力し、来訪しやすい環境作りに努めている。	自宅の近所だった人や友人などの訪問を受けたり、行きなれた理髪店などに出かけ、馴染みの人や場との関係が継続できるよう配慮している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	自発的な利用者同士の関わりを大切にしている。必要な時は職員が声掛けし、又は仲介に入り円滑になるように努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後にもお見舞いに行ったり、書面で近況を伺ったりしている。家族が施設に遊びに来て下さることもあった。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日頃から会話する時間を多く取るように努めている。困難な場合は家族とも話をして意向に沿うように努めている。	利用者に思いを聞くときは、気持ちを表しやすいよう尋ね方を工夫している。また、利用者の表情や声のトーンなどに留意し、真意を推し測るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	前施設・病院からの情報等をもとに、本人や家族から聞き取りをして把握できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々様子観察し状態を把握できるように努めている。声掛けの時間やタイミングに留意し日頃からの変化に気づくように心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを最低月に1度は開いて意見交換している。医師や看護師からも助言や意見をいただき、ケアプラン作成に反映するようにしている。	利用者の出来るところは伸ばし、出来ないところはさり気なく支援するような介護計画を、本人や家族の要望などを取り入れ、カンファレンスで話し合っ作成している。	職員は、介護計画の必要性を理解し、アセスメントとモニタリングを繰り返し行いながら、気づきや意見、アイデアなどを多く出し、介護計画につなげることが期待される。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の記録は時系列に細かく記録するようにしているが、工夫の記録は少なく実践や計画見直しには生かされていない。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	透析の方への食事提供や、在宅酸素への対応、訪問マッサージの利用や訪問歯科医の診察など多機能的に取り組んでいる。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	移動図書館の利用に出かけている。運営推進会議に参加して下さる社会福祉協議会の方や、敬老会代表の方、地域包括センターから情報や協力を頂き行事参加に繋げている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医と、連絡ノートによる情報共有や、家族同伴での受診時に介護サマリーの提出など信頼関係構築に努めている。	基本的には、かかりつけ医は入居後も継続し、各々の医師による往診を受けている。また、家族が病院に付き添う際には、日頃の健康状態の記録を持参してもらうなど、医療面の連携を図っている。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤ではあるが、正看護師を配置している。数名の利用者様は訪問看護ステーションとの契約もされている為、相談しやすい。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の介護サマリーの提出。退院時のカンファレンスをお願いして、医療連携室とも密に情報交換できるように努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化や終末期に向けた説明をし、家族の要望を確認している。本人の状態に応じ家族・医師と話し合い、グループホームとできる限りのケアに取り組んでいる。	医療連携体制や、家族などとの協力関係の構築などを、指針をもとに確認し、利用者や家族の希望に沿って支援している。開設後1年半で、看取り支援を行い、他の利用者や職員と一緒に見送った事例が1件ある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDは設置してあり、講習済であるが、定期的な訓練となっていない。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2度は避難訓練を実施している。毎回想定を変え対応できるように努めている。また地域の避難訓練にも参加している。非常食の備蓄・災害グッズは現在準備中である。	利用者が昼夜を問わず避難できるよう、年2回訓練を行っているが、消防署立ち合いの訓練は未実施である。また、地域の避難訓練に参加し、水害と地震によって避難先が異なるなどの情報を得ている。	



自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の歩んでこられた人生観をくみ取り、誇りやプライバシーを損ねない様に場所、声の大きさ、言葉遣いに気を付けている。	職員側の思いを優先するのではなく、利用者本人の気持ちを尊重する支援に努めている。また、本人の希望には、可能な限り応えるように心がけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が選択できるように、どうしたいかを伺い、職員による一方的な決定とならないように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせてゆったりとした生活が送れるように支援している。業務優先とならないように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	男性の場合は髭剃り、女性の場合は髪型や化粧など整容に気遣い、本人らしさを継続できるよう支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様から食べたい物を聞き取り、季節感が感じれるように工夫して提供している。下準備や盛り付け、配膳、片付けなど一緒にしている。	利用者が皮をむいたジャガイモを使ったカレーライスを味わうなど、共に食事を楽しめるように配慮している。また、煮物の味付けなど、出来ることをやってもらう支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回食事量や水分摂取量は記録している。利用者様個々に応じた食事形態や量を調整している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの声掛けをしている。義歯の方は毎晩洗浄剤を使用して消毒している。舌苔にも注視しスポンジブラシも活用している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄チェック表を活用しパターンを活かしてトイレで排泄出来るように声掛けしている。ズボンの上げ下げやお尻拭き等出来ることは自分でして頂いている。	利用者の尊厳を大切にし、出来ることは自分でやってもらうようにし、また、トイレにはあからさまな誘導ではなく、さり気なく声をかけるなど、排泄の自立につながる支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	牛乳やヨーグルトの乳製品・繊維質の摂取などの工夫をしている。医師の処方がある場合は薬でコントロールしている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	職員人数の関係上、入浴時間は決められているが、順番やタイミングに配慮している。入浴がないときには手浴や足浴、清拭で対応している。	入浴は午後から始まり、入る順番などを確認し、早く入浴してもらっている。また、またがなくてもよい浴槽を備え、利用者の安全と不安の軽減を図っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の体調や希望により昼寝や休息を取って頂いている。室温・布団調整・室内灯など環境整備に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報を職員が共有できるようにしている。誤薬や服薬忘れのないように職員同士確認の声掛けを行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	本人のやりたい事や残存機能を把握し一人ひとりに合ったことを提供するように努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の買い物や散歩は行っている。普段行けない場所などは皆でドライブする形として行っている。家族の協力で外出や外泊のお願いもしている。	日常的に事業所の周辺の通学路を散歩したり、買い物に出かけている。また、近くの公民館で催されるいきいきサロンに出かけ、人形劇や紙芝居を楽しんだり、二上山にドライブするなど、外出を五感刺激を得られる貴重な機会としてとらえている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には施設が預かり管理しているが買物の際には金銭感覚を維持できるように自分で支払っていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち込んでいる利用者様が数名いるが、本人は使用できない状態ではない為使用していない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の関係を考慮し席を決めている。壁には行事の思い出や飾り物などを掲示し、室温・明るさ・音に注意を払っている。	広々としたリビングや廊下など、開放的で明るい雰囲気のもと、皆でクリスマス会をしたり、思い思いにソファに腰をおろして談笑するなど、穏やかな雰囲気をつくっている。また、広々とした窓からの採光や室温などを調節し、居心地よく過ごせるように配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者様同士が部屋を行き来して談笑している。リビングにソファを置きゆったりと過ごすことも出来るようにしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の使い慣れたものを持ってきていただくようにしている。家族の写真飾られていたり、毛布やタオルケットなども持ち込まれ使用している。	居室には使い慣れた整理タンスを置いて、タオルや下着類を取り出しやすいように収納したり、亡夫の写真飾るなど、居心地よく暮らせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや風呂場などには表示を付けている。動線上には物を置かないようにして安全に配慮している。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームひだまり御車山  
 作成日 平成 29年 2月 24日

【目標達成計画】

優先順	項目番	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	6	全職員が身体拘束・虐待への理解がある状態ではない。	全職員が身体拘束・虐待への知識を深め、意識して介助していく。	研修の開催は決定しているので全職員が参加し理解を深める。研修以降も毎月ミーティング等にて理解を深め実践に繋げていく。	1年
2	26	職員が介護計画への理解が薄く、気づきや意見を自発的に発言していない。	介護計画への理解を深め職員が自発的に考察し発言できるようになる。	日頃の観察力が向上するように詳細な記録が残せるように指導していく。	1年
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。

グループホームひだまり御車山